

青ヶ島～第1話～

副校長 小林 寿典

今回、青ヶ島について掲載しようとした理由は、内地での生活と日本で一番小さな自治体の青ヶ島での生活を体験し、いろいろな人がいろいろな場所で一生懸命に生活をしていることを少しでも知ってもらいたいという思いがあります。どのように感じるかは、その人によって違いがありますが、こんな凄いところ・素晴らしいところがあるのだと感じてもらえると嬉しいです。

私が石神井西中学校にくる前は、青ヶ島村立青ヶ島中学校という離島に赴任をしておりました。住所は、「東京都青ヶ島村無番地」。青ヶ島村の全村民・全施設・唯一の金融機関郵便局・村役場、全てが「東京都青ヶ島村無番地」でした。「無番地」とは「何丁目何番地何号」という「住居表示」がない場所のことを呼びます。このような住居表示がない場所の多くは国有地または、元国有地であった土地、新しくできた埋め立て地などです。国有地で無番地のものの代表格は「自衛隊用地」です。「横須賀地方総監部」の住所は、「神奈川県横須賀市西逸見町1丁目無番地」です。青ヶ島は、未登記のものが多く、土地所有関係に不明瞭なことが多い点、人口が約150人ほどで、誰がどこに住んでいるかほぼ全員が把握していることも理由だと思います。



～交通手段～

東京から358km、八丈島から約80kmほど離れた青ヶ島。八丈島を目指し、そこを中継点として海からは船で、空からはヘリコプターで絶海の孤島を目指します。交通の便もまだまだ良くないといわれていますが、羽田発八丈島行き朝一番の飛行機(1891便 7:30頃発)に搭乗すれば、東京から最短で2時間で到着します。し



<青ヶ島の旧港 海は大荒れです。>

かし、そううまくはいきません。船の年間就航率は50%。ヘリコプターは最大搭乗可能人数9名で青ヶ島を含めた全伊豆諸島の人たちや内地の人たちが一斉に予約電話をかけます。(朝9時になると、「ヘリ取り」と言って授業のない教員全員で電話をかけます。)ヘリコプターは雨風には強いのですがヘリポートが見えなかったら到着できません。せつ

つかく来たのにさようならです。一緒に赴任していた人は「アフリカに行くよりたいへんで、いつたどり着くかわからない」と言っていました。(天候が安定している夏場だけは順調です。)

～食料や買い物～

島内には一店舗のみいろいろな物を購入できる店があります。野菜は船がきたときだけ販売されます。八丈島のパン屋さんで製造されているパンが店に並んだときは、あっという間に売り切れになってしまいます。肉は冷凍物が結構あります。鮮魚は流通していません。島でとれた魚は八丈島に水揚げされるか、民宿の冷凍庫に保管されます。では、どのように魚を食べるのかと言うと、自分で釣りをして得るか魚釣りをすると仲よくなってもらう以外魚を食べる機会はほぼありません。アマゾン等の通販は、船がくると運ばれてきますので、ネットでの買い物は内地と変わらずに出来ます。

～通信手段～

私が赴任したときは、光回線が開通していませんでした。懐かしいADSL(2020年時点)でした。また、携帯電話もDocomo以外はなかなか通じません。大きな鉄塔(アンテナ)が2つ建っていましたが、台風が通過したときに倒壊しました。信じられないことが、いつも起こる島でもありました。

<次回は島のすばらしいところや学校生活や進路事情等について掲載します。>

※島の人たちは、島から見て東京などのことを「内地」と言います。